

3 主要農作物病害虫の発生状況と原因解析

1) 普通作物

(1) 水稲

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
苗立枯病	平年：－ 前年：－	平年： やや少 前年：少	一部の育苗施設等で発生が見られた。	適正な種子消毒や床土消毒、育苗管理により、全般にはやや少の発生であった。
苗いもち	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	少ない発生であった。	種子消毒や育苗管理が適正に行われたため、少なかった。
葉いもち	平年：並 前年：並	早植： やや少 普通植：少	7月中旬調査で発生程度の高いほ場が一部見られたが、8月上旬調査では県全域で発生は少なかった。	6月中旬から7月上旬までは降水量が多かったが、中旬以降は降水量が少なく気温も平年より高く経過したため、早植・普通植ともに発生は少なかった。
穂いもち	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	少ない発生であった。	葉いもちの発生が少なく、8月の気温が高く降水量も少なかったため、感染に不適な条件だった。
紋枯病	平年：並 前年：並	平年： やや少 前年： やや少	7月上・中旬では平年並みだったが、8月上旬～9月はやや少ない発生となった。	生育期間は高温で経過した。6月中旬から7月上旬までは降水量が多かったが、中旬以降は降水量が少なかったため、発生はやや少なくなった。
ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	少ない発生であった。	適正な種子消毒や育苗管理により、全般に少ない発生であった。
稲こうじ病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：少	県全体で発生が見られたが、程度は軽かった。	前年度の発生は多かったが、7月下旬から気温は高く、降水量は少なく経過したため、感染に不適な条件だった。
もみ枯細菌病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	少ない発生であった。	適正な種子消毒や育苗管理により、全般に少ない発生であった。
縞葉枯病	平年：や や遅い 前年：や や遅い	平年： やや多 前年： やや少	ヒメトビウンカの飛び込みが前年より遅かったため感染時期が遅れた。県南部で発生が多くみられたが程度は前年より軽く、後期発病も分けつ茎での発病が多かった。一方、これまで発生が少なかった県中北部に拡大している。	2、3年前から県南部で発生が増加し、ヒメトビウンカの保毒虫率も高くなっている。
黄萎病	平年：早 い 前年：早 い	平年： やや少 前年： やや少	収穫が早まったため再生稲での発生は早く見られた。県中部の一部で発生程度の高いほ場もみられたが、県全体としては少なかった。	ツマグロヨコバイの箱施用剤防除が行われていない地域で発生程度の高いほ場が見られる。
ヒメトビウンカ	やや遅い	やや多	本田の飛込み調査ではやや遅いが、5月から9月までの予察灯調査期間中のうち、9月以降に誘殺数が多くなった。総誘殺数は平年並。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は多かった。	6月後半以降気温が高く、7月後半以降は降水量も少ないまま推移したため、発生には好適な条件であった。
ツマグロヨコバイ	平年並	やや多	5月から9月までの予察灯調査期間中のうち、8月以降に誘殺数が多くなったが、地点により発生程度のバラツキが多い。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は多かった。	7月後半以降、気温が高く降水量も少ないまま推移したため、発生には好適な条件であった。
セジロウンカ	平年並	多	予察灯における総誘殺数は多かった。8月上旬の本田におけるすくい取り調査の発生量も多かった。	
トビロウンカ	平年並	少	予察灯における誘殺数は少ない。	本県への飛来は少ない。
ニカメイガ	越冬世代： 平年並 第一世代： 平年並	越冬世代： 平年並 第一世代： やや少	フェロモントラップによる越冬世代成虫の発生量は平年並。 7月中旬の心枯茎の発生株率、8月下旬から9月上旬の白穂の発生株率はやや少なかった。	越冬幼虫の寄生株率は平年並。
コブノメイガ	平年並	少	予察灯における誘殺数は少ない。	本県への飛来は少ない。

イネミズゾウムシ	平年並	やや多	5月中旬の本田における発生量はやや少なかった。 5月から9月までの予察灯調査期間中のうち、7月以降に誘殺数が多くなった。	越冬世代成虫の越冬密度が低かったため、越冬世代の発生量は少なかった。6月後半以降気温が高く、7月後半以降は降水量も少ないまま推移し、発生に好適な条件であった。
イネツトムシ(イチモンジセセリ)	平年並	県中部：平年並 県北・南部：多	7月上旬の発生株率は多く、7月中旬は平年並であった。 県北・南部で発生が多かった。	7月後半から8月前半にかけて降水量が少なく、発生に好適な条件であった。
コバネイナゴ	平年並	平年並	8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は平年並であった。	
斑点米カメムシ類	平年並	多	7月中旬のイネ科牧草地での発生量はほぼ平年並であったが、カスミカメムシ類は多かった。8月上旬の本田におけるすくい取り調査での発生量は多く、ホソハリカメムシは少なかったが、クモヘリカメムシ、カスミカメムシ類は多かった。	7月後半以降気温が平年より高く推移した。
斑点米カメムシ類	平年並	多	7月中旬のイネ科牧草地での発生量はほぼ平年並であったが、8月上旬の本田におけるすくい取り調査での発生量はクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシは平年並だが、カスミカメムシ類は多かった。	7月上中旬は気温が平年より高く推移し、8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、平年に比べて特にカスミカメムシ類の発生が多くなった。

(2) 麦

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：やや	六条大麦や小麦ほ場で発生が多かった。	生育期の気温が高く、4月の降水量が多く発生に好適な条件であった。
赤かび病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	全般的に少ない発生であったが、小麦を中心に5月下旬以降に発生が見られた。	4月の降水量は多かったが、登熟期は降水量が少なく発生に不適な条件であった。
大麦縞萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	少ない発生であった。	二条大麦では、罹病性品種の作付が極少となった。
大麦斑葉病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	少ない発生であった。	健全な種子が供給された。

(3) 大豆

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
紫斑病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや少	生育期、被害粒ともに平年並の発生だった。	
べと病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：やや多	8月中旬は平年並、9月中旬は多くなった。	
コガネムシ類	平年並	やや多	全般的にやや多であったが、県北の予察灯で6月下旬、8月にオオクロコガネ誘殺数が多くなった。 県北部で夏に産卵されたと思われる幼虫による被害が目立った。	堆肥を利用する飼料作物が多い地域では、成虫が大豆に飛び込む機会が多い。
アブラムシ類	平年並	やや多	発生ほ場率は8月中旬は高く、9月中旬は平年並であった。	7月後半以降、気温が高く降水量も少ないまま推移したため、発生に好適な条件であった。
ダイズサヤタマバエ				
シロイチモジマダラメイガ				
マメシンクイガ				
カメムシ類	平年並	やや多	ほ場での発生量はやや多。	ほ場では主にホソハリカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシが観察された。
ハスモンヨトウ	平年並	多	幼虫の発生ほ場率は8月中旬は平年並、9月中旬は高くなった。	8月下旬以降、気温が高く降水量も少ないまま推移したため、発生に好適な条件であった。
フタスジヒメハムシ	平年並	平年並	発生量は、8月中旬、9月中旬とも平年並であった。	7月後半以降、気温が高く降水量も少ないまま推移したため、発生には好適な条件であった。

2) 野菜

(1) いちご (本播:平成21年10月~平成22年5月 親株・育苗床:平成22年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年: やや早 前年: 並	平年: 多 前年: 多	8月以降多い発生となった。	8月は平年よりかなり高温となったため、多かん水等により発生が増加した。
萎黄病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 並	少ない発生であった。	無病親株を使用し、無病畑での採苗、空中採苗が行われている。
灰色かび病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 並	採苗後の発生は少なかった。	7月の降水量は若干多かったものの6、8月の降水量は平年よりも少なく、発生に不適な条件であった。
うどんこ病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	親株、育苗期間を通して平年並の発生となった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年: 並	平年: やや多	親株、育苗期間を通してやや多い発生であった。	親株から育苗の時期に気温が高く、降水量が少なかったため、発生に好適な条件であった。
ハダニ類	平年: 並	平年: やや多	親株、育苗期間を通してやや多い発生であった。	親株~育苗期間にあたる6~9月に気温が高く、降水量も少なかったため、発生に好適な条件であった。また、薬剤感受性の低下も懸念される。
オンシツコナジラミ	平年: 並	平年: 並	親株、育苗期間を通して平年並の発生であった。	

(2) トマト (冬春:平成21年10月~平成22年5月 夏秋:平成22年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 並	全般に少ない発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの6、8月の降水量は平年よりも少なく、発生に不適な条件であった。
灰色かび病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 少	6、7月はやや多い発生であったが、8月には平年並の発生となった。	平年に比べ、5月の高温多雨により、生育が過繁茂となったため、生育前半の発生が多かった。8月は高温少雨により発生が少なかった。
葉かび病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	全般に少ない発生であった。	耐病性品種が中心に作付けされている。
アブラムシ類	平年: 並	平年: 少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
オンシツコナジラミ	平年: 並	平年: 並	全般的に平年並の発生であった。	
タバココナジラミ	平年: 並	平年: 並	全般的に平年並の発生であった。	
ハモグリバエ類	平年: 並	平年: 少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(3) なす

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年: やや早 前年: やや早	平年: やや少 前年: やや少	7月まではやや多い発生であったが、8月以降はやや少ない発生となった。	やや軟弱に生育したため7月まではやや多い発生であったが、その後適切な防除により発生が抑えられた。
灰色かび病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	全般的に少ない発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの6、8月の降水量は平年よりも少なく、発生に不適な条件であった。
半身萎凋病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 並	全般に少ない発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。
青枯病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 並	全般に少ない発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。
ハダニ類	平年: 並	平年: 並	全般的に平年並の発生であった。	
アブラムシ類	平年: 並	平年: 並	全般的に平年並の発生であった。	
ミナミキイロアザミウマ	平年: 並	平年: やや多	7月は平年並みだったが、8月にやや多、9月には多かった。	夏季高温のため、発生に好適な条件であった。

(4) きゅうり (冬春：平成21年10月～平成22年5月 夏秋：平成22年6～9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの6、8月の降水量は平年よりも少なく、発生に不適な条件であった。
べと病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの6月の降水量は平年よりも少なく、発生に不適な条件であった。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	全般的に平年並の発生であった。	4月は多雨、寡日照によりやや軟弱に生育したため4月、5月は発生やや多かったが、その後適切な防除により発生が抑えられた。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	抑制作りに切り替わり、9/中までは発生が少なかったが、9/下以降の発生が多くなった。	9/中までは天候が安定していたが、9/下に高温多雨となり、一気に発生が多くなった。
疫病	平年：少 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの6、8月の降水量は平年よりも少なく、発生に不適な条件であった。
ミナミキイロアザミウマ	平年並	多	全般的に多い発生であった。	夏季高温のため、発生に好適な条件であった。 また、薬剤感受性の低下により、有効な薬剤が少ないことも多発要因の一つと考えられる。

(5) ゆうがお

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	やや早	平年並	全般的に平年並の発生であった。	6月は発生やや多かったが、その後適切な防除により発生が抑えられた。
モザイク病	少	少	全般的に少ない発生であった。	防除が徹底された。
アブラムシ類	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(6) なら

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
乾腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	土壌消毒あるいは無病地への作付けが行われた。
白斑葉枯病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：	全般的にやや少の発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生がやや少なかった。
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生が少なかった。
株腐細菌病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生が少なかった。
ネダニ	平年：並	平年：やや多	9月は平年並みであったが、10月は多い発生であった。	9月以降も気温が高く推移したため、発生に好適な条件であった。

(7) ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	7月から8月まで平年より気温がかなり高く推移し、8月の少雨により発生が少なくなった。
べと病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	7月から8月まで平年より気温がかなり高く推移し、8月の少雨により発生が少なくなった。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	全般に平年並の発生であった。	7月は高温多雨となったが、適期防除が行われた。
ネギアブラムシ	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ネギアザミウマ	平年並	多	7月は平年並みであったが、8月はやや多く、9～10月は多い発生であった。	夏季に高温で降水量が少なかったため、発生に好適な条件であった。
ネギハモグリバエ	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ネギコガ	平年並	少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(8) たまねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	4月、5月の降水量は多かったが、適期防除が行われた。
べと病	平年：並 前年：並	平年： やや少	全般的にやや少ない発生であった。	4月、5月の降水量は多かったが、適期防除が行われた。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	4月、5月の降水量は多かったが、適期防除が行われた。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	4月、5月の降水量は多かったが、適期防除が行われた。
ネギアブラムシ	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ネギアザミウマ	平年並	平年並	全般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(9) はくさい

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白斑病	平年： 遅い 前年： 遅い	平年：多 前年：多	全般的に多い発生であった。	9月は降水量が平年より多かったため、発生が多くなった。
べと病	平年： 遅い 前年： 遅い	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生が少なかった。
黒斑病	平年： 遅い 前年： 遅い	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生が少なかった。また、定植時期も平年よりも遅れた。
軟腐病	平年： 遅い 前年： 遅い	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	平年より定植時期が遅れ、高温多湿条件で結球することがなかった。
ウイルス病	平年： 遅い 前年： 遅い	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	アブラムシ類の発生が少なかった。

(10) キャベツ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒腐病	平年： 遅い 前年： 遅い	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生が少なかった。
菌核病	平年： 遅い 前年： 遅い	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生が少なかった。

(11) あぶらな科野菜

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
アブラムシ類	平年：並	平年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナガ	平年：並	平年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(12) レタス

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生が少なかった。
菌核病	平年：遅い 前年：遅い	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が多かったが、気温が高かったため、発生が少なかった。
軟腐病	平年：遅い 前年：遅い	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	平年より定植時期が遅れ、高温多湿条件で結球することがなかった。
アブラムシ類	平年並	少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(13) 野菜共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ハスモンヨトウ	平年：並	平年：多	フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺数は平年より多く、ただし、キャベツ、きゅうり、いちご、ねぎ、なすで平年より多く発生していたため、注意報を発出した。	夏季に高温で降水量が少なかったため、発生に好適な条件であった。
オオタバコガ	平年：やや早	平年：やや多	フェロモントラップでは、9～10月に多く誘殺された地点もあった。また、いちご等の作物でも、発生が見られた。	夏季に高温で降水量が少なかったため、発生に好適な条件であった。

3) 果樹

(1) なし

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に発生は少なかった。	県内の主力品種は、耐病性のある幸水、豊水が作付けされている。
黒星病	平年：やや早 前年：並	平年：多 前年：並	5月から7月にかけ全般的には発生時期が早く、発生量は多かった。	感受性が高くなる4月、5月に平年より降水量多く、生育前半で発生が多くなった。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	ビャクシン類における冬孢子堆の成熟は平年並。なしでの発生は、少なかった。	4月の降水量は多かったが、産地のビャクシン類も少なく、飛散胞子量が少なかった。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	全般的に平年並の発生であった。	
ハダニ類	平年：並	平年：並	全般的に平年並の発生であった。	

(2) ぶどう

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
晚腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	6月の降水量は少なく、5月、7月の降水量は多かったが、適期防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	栽培後半の発生がやや多かった	6月は降水量少なかったが、7月は降水量は多かったため、栽培後半の発生が多くなった。
黒とう病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並の発生であった。	4月、5月に平年より降水量多く、生育前半で発生が多くなったが、全般的には平年並の発生となった。
チャノコカクモンハマキ	平年：少	平年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(3) りんご

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並の発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの6、8月の降水量は平年よりも少なく、発生に不適な条件であった。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの6、8月の降水量は平年よりも少なく、発生に不適な条件であった。
輪紋病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの6、8月の降水量は平年よりも少なく、発生に不適な条件であった。
ハダニ類 やや遅	平年： やや遅	平年：並	一般的に平年並の発生であった。	

(4) 果樹共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カメムシ類	平年：並	平年：並	フェロモントラップによる誘殺数は、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシともにやや少～平年並みで推移した。果樹カメムシ類の果樹への飛来は平年並みであったが、一部、クサギカメムシが平年よりやや多く飛来した園もあった。	チャバネアオカメムシの越冬量は少なかった。また、今年のスギの球果量は平年並、ヒノキの球果量は少なかった。以上より、増殖にあまり適していない条件であったため、今年の発生量はやや少～平年並であったと考えられる。
ナシヒメシンクイ	平年：並	平年：並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並みで推移した。発生時期もほぼ平年並みであったが、6月上～中旬の誘殺がやや遅かった。なしでは、一部のほ場で被害がみられたが、適切な防除が行われた。	5月中旬～6月上旬の梅雨入り後まで、まとまった雨がが多く、成虫の飛翔行動が抑えられたと思われる。
モモシンクイガ	平年：並	平年：並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並みで推移した。	
リンゴコカクモンハマキ	平年：並	平年：並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並みで推移した。	

4) 花き

(1) きく

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	5、6月はやや多い発生であったが、全体的に少ない発生であった。	7月から8月まで平年より気温がかなり高く推移し、8月の少雨により発生が少なくなった。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	一般的に平年並の発生であった。	
アザミウマ類	平年：並	平年：並	10月は多い発生であったが、一般的に平年並の発生であった。	
ハダニ類	平年：並	平年：多	一般的に多い発生であった。昨年から引き続き発生が多い。	夏季に高温で降水量が少なかったため、発生に好適な条件であった。また、常にハウス内で苗～収穫期まで連続して栽培されているため、発生も連続した。